

四国 レンタカーの旅 五日 (はじめましてしこく)

平成24年5月21日(月) 千葉=曇り 東京=曇り 上空=晴 徳島=晴

3時40分起床。昨晚予約しておいたタクシーで八千代台駅へ。

八千代台発4時58分、一番電車なのに座れない位に混雑している。

青砥で羽田空港行に乗り替えたら、これまた混雑でしばらくは座れなかった。いずれも金環日食の影響だろうか、車内を注意深く観察して見るとカメラを持っている人や夜更かししたと思われる顔つきの人が目立つ。羽田空港着6時31分。天気は曇り、薄く光を感じる程度なのは曇りのせいか日食のせいか。

空港内のカウンターはさほど混雑はしていない。旅先で日食を見ようという人は、もう昨日の内に出發しているのに違いない。

7時25分発(JL1431)は30%ほどが空席、約20分遅れて離陸。離陸直前に空港ビルの屋上を見たら超満員の人影が見えた。飛行機を見に来た訳ではなく、おそらく日食観光客に違いない。

飛行機の中から金環日食を体験。次に雪をたっぷりつけた南アルプスと北アルプス、遠州灘、浜名湖、伊良子岬、志摩半島、そして紀伊半島。

徳島空港着8時40分。空港内のレンタカー会社のカウンターへ行き、予め手配してあるレンタカーの確認の後空港外にあるオフィスまでマイクロバスで移動して、手続き。車はホンダのフィット、すぐに出発。

かみさんと二人の気楽な旅で、全行程の細かなことはあまり決めてない。走りながら考えるということで。まずは、車の感じをつかむのとカーナビゲーションの操作を確認するために、吉野川河口に架かる吉野川大橋を渡って見た後、市内を一望できる場所にある眉山(びざん)へ行ってみることにした。

吉野川大橋から見る吉野川は幅は広いが水が流れている所は僅かしかなく、ちょっとがっかり。

眉山は海拔290m、徳島の駅前に聳え立つ「町のシンボル」的な山。

鳴門の渦潮は、今日は大潮で観潮最適時刻が12時10分ということになっている。観潮船の乗船所要時間は30分なので、11時40分の船に乗りたい。船の時刻が気になるので、長居はせずすぐに移動開始。

鳴門ICから鳴門北ICまで高速を使用して鳴門公園に11時15分頃に到着。

予定通り11時40分の船(「わんだーなると」と名が付いている)に乗って渦潮鑑賞。

渦潮が見られる場所は、遠くから見ても海面が白く泡立っている。そばまで来ると、上る潮と下がる潮がぶつかって海が盛り上がり、大きな渦となつて低い渦の中心に吸い込まれるように入っていくのがよくわかる。

大自然のなせる迫力ある現象に、しばらく見入ってしまった。

船を降りたら昼食をとっていたが、意外なことに付近に食事できる場所がない。鳴門市内に戻ったが、国道沿いにここぞと思う店は見つからず結局徳島空港近くのうどん屋に入った。讃岐うどんと同じ汁の味で、牛肉とワカメと甘く煮込んだ油揚げが入っている徳島ならではのうどん(だと思ふ)だった。

昼食の後は吉野川を遡って川の大きさを感じて見ようと思って、南岸に沿った伊予街道を西へ。しかし、吉野川はこのあたりでも川幅こそ広いが、水流は少ない。これが四国三郎なのかとがっかり。

付近の畑の土の色が白っぽいので良く見ると、川砂のような土だった。吉野川の氾濫がもたらした堆積物だろうか。いたるところに白または黒のビニールシートを伴ったサツマイモ畑が広がっている。このあたりは鳴門金時が主たる産物のようだ。

出發前に地図で見つけた「土柱(どちゅう)」が気になり、行ってみることにした。

瀬詰大橋で北岸に渡って撫養(むや)街道に入り、しばらくで「土柱入口」の表示が現れた。表示に導かれて緩やかな傾斜の山道を登って行くことわずかで、土柱の駐車場に到着。車を置いてさらに山の中へと進んで行くと、右手の谷間の反対側に土柱が現れた。



130 万年前の礫層が雨や風を受けて侵食され、削られて、雨溝ができる。そしてさらに雨水に洗われ落石に



削られる内に抵抗力の強い部分だけが残ってセメント化し、柱状・突塔状・筍状・屏風状等の土柱を残したと説明の看板が語っている。昭和 9 年に国の天然記念物に指定されたそうだ。

ロードマップを見ていたら、撫養街道を 5・6Km 遡った所に「うだつの町並み」と書いてあるのが気になり行ってみることにした。

脇町、吉野川の中流にある静かできれいな町。

漆喰と瓦のきれいな家並みが大事に保存されている。車を降りて裏通りの散策と写真撮影。聞こえてくる老婆達の会話も柔らかく温かい。これが阿波の言葉なのか。

脇町 IC から藍住 IC まで徳島自動車道、下に下りて県道 1 号線を走って板野 IC から高松自動車道に入り神戸淡路鳴門自動車道へ。鳴門北 IC で下りて、本日の宿である大毛島の「ルネッサンスリゾートなると」へ。

ホテルの周囲は鳴門金時の畑、窓の外は鳴門海峡と淡路島。



平成24年5月22日 晴

恒例の朝風呂のあとで朝食。9 時前に宿を出発。

昨日観潮船からの景色を楽しんでいたら、鳴門大橋の車道の下に展望用の通路があることがわかり行ってみたくなった。再び鳴門公園に入りエディと名付けられた展示館の裏側に出て、坂道をいくつか上り下りすると展望通路の入口になった。

「渦の道」と名がつく片道 450m の遊歩道に入ると遠望も得られるし、遊歩道の所々にガラス張りの場所があって真下の海を見ることができる。干潮と満潮の間の時間で観潮には適さない時間帯ではあるが、橋から見下ろす潮流は美しいし迫力もある。潮の流れが止まった時を狙って来たらしい漁船で、漁師が忙しく作業をしている様子が見えた。

次に鳴門へ来る機会があったら、ぜひここから渦潮を眺めたいと思いながら退却。

旅の前に地図を見ていて、ここを走って見たいと思った場所のひとつ、鳴門から瀬戸内海を右手に見ながら走る志度街道。海岸線に沿った様々な景色が楽しめる。ところどころで内陸に入ってしまう所もあるが、海を感じながら走るのは気持ちが良い。

高松が近くなると、特徴的な凹凸がある半島が瀬戸内海に突き出してきた。これは壇ノ浦の東側にある五剣山 (366.1m)・女体山 (260.3m)・源氏ヶ峰 (217.2m) などの山々。そしてこの半島をやり過ぎすと、今度は山頂がまっ平らな屋島が迫ってくる。二つの山 (半島) の間にある入江が壇ノ浦。



壇ノ浦の東岸は工業団地、西岸は住宅地、いずれも埋め立ててできたようだ。ロードマップを見ると住宅地の中に「壇ノ浦古戦場」と表示があるので探してみたが看板すら見つからなかった。どちらかと言えば富裕層が住んでいそうな豪華な家が立ち並び、800 年の歴史とは無関係と感ぜさせる景色が面白かった。

時間の関係でいずれの半島も山頂までは行かずに次の目的地 (大歩危) に向かうことにした。

高松中央 IC から高松自動車道に入り、大野原 IC から県道 8 号線を南へ山越えのルート。

途中で「豊稔池」という看板に魅かれて寄り道することにした。「豊かな実りを願って作った池」だとしたら、



土地に住む人の気持ちが表れている名前だと勝手に想像してみた。どんな池なんだろうかとワクワクしながら登って行くと、厳めしい鎧をまとった戦士のようないでたちの堰堤が現れた。

出迎えてくれたのはマルチプルアーチダムという大変珍しい堰堤。堰堤の高さは 30m、幅は 128m で、五つのアーチダムを連結した形になっている。大正 15 年着工・昭和 4 年竣工と書いてある。元の名は田野々池だったが、

工事完了時に豊稔池と名付けられた。水不足の心配が多い昨今、約 500ha の農地を潤す農業用水として活躍を続けているとのこと。

再び 8 号線に戻って県境（香川・徳島）の山をトンネルで抜けて伊予街道に出ると、再び吉野川に出会った。吉野川の下流は水量が少なくてがっかりしたが、ここで見ると川幅いっぱい水が流れる力強い川になっている。しかも水の色が陽光を受けて一層の美しさで四国三郎の面目躍如。

宿へ入るのにはまだ早いので、場所だけ確認して大歩危・小歩危まで足を伸ばして溪谷鑑賞。溪谷に沿って国道 32 号線と土讃線が走る、青い空と白い岩肌に碧色の川の水、なかなかの景色である。大歩危の少し先まで行ってから宿に向かった。折り返した場所はロードマップで確認して見ると、あと数キロで徳島・高知の県境になるところだった。



本日の宿は「大歩危祖谷阿波温泉 あわの抄」、川の合流点の高台にある宿は吉野川北岸の山が目前に迫り、谷あいに暮らす町の景色が一望できる。

平成24年5月23日 晴

朝風呂、朝食、そして出発はやや早めの 8 時 15 分。

今日は祖谷・奥祖谷を見て剣山まで行って見た上に室戸岬の宿まで行こうと言う欲張りなプラン。まずは車の腹ごしらえからとしてガソリンを満タンに。

ロードマップで見つけて少々気になっていた黒沢湿原、昨日国道を走っていたら祖谷口橋の T 字路に入口の



標識があった。どうしても気になるので行ってみることにした。後でわかったことだが、「黒沢（くろぞう）湿原」と読むようだ。祖谷口から 5Km ほどの所で祖谷への道から分かれて松尾川の谷に入っていく。そして 1.5Km ほど進んだところから枝沢に沿って北へゆっくりと登って行くと広い平地が現れた。

海拔 550m にあり、東西 100~300m・南北約 2Km で面積は約 40ha、四国では唯一の湿原とのこと。かなり堆積物が増えて、間近に接近しないと水の存在に気がつかない程度になっている。色々な花が見られるようだが、ちょうど花が咲いていない時期だった。

遊歩道を適当に散策しながら、鳥の声や木々のざわめきを楽しんだ。わずかにアザミが咲き始めたぐらいで、花を楽しむことはできなかったが、静かで気持ちの良い散策になった。

松尾川に戻り、さらに祖谷川に入って祖谷溪へ。足元は深い谷川、山の中腹に張り付くように民家が建つ奥秩父の奥地の集落のような景色が続く。祖谷のかずら橋は橋を渡る観光客で渋滞していた。かずら橋の下は U 字谷で白い岩とコバルトブルーの水、そして砕け散る白い泡。吊り橋渡りを体験した後、さらに奥地へ。登って行くにつれて川幅は狭くなり、谷は深くなる。

奥祖谷二重かずら橋は、男橋・女橋と二つのかずら橋がある。ここまで入ってくる客は少ないようで、吊り橋を歩いて渡る行列はなく貸し切りのような状態。

駐車場の前の店に入って昼食。讃岐はうどん・祖谷はそば、ということになっているので祖谷そば。そばの味は今ひとつの感じだったが、こんな山奥なので・・・と思えば許せる範囲かも。

祖谷川をさらにつめて見ノ越の剣山登山口まで行ったが、リフトで上まで登る時間がなくなってしまった。ここで 1~2 時間楽しんでしまうと室戸岬の宿までたどり着けなくなりそうなので、登山口の景色をカメラに収めただけで U ターンすることにした。

当初は見ノ越からトンネルを抜けてさらにいくつもの山並みを越えて東海岸に出たいと思っていたが、道路事情がよくないのと時間的に無理そうなので諦めた。

カーナビゲーションが示す最短時間のルートは、祖谷の谷沿いの道に戻って、大歩危経由で大豊 IC から高知自動車道。

あまり広くない道が多い祖谷川沿いの国道は、平日のせいか対向車が少ないので急いで走るのには好都合。



大歩危トンネルを抜けると高知県に入る。大杉で並走していた土讃線と別れて大豊 IC から高知自動車道。南国 IC までは 21Km。南国 IC (なんこく と読むのが正しい) から後免 (ごめん)・安芸・奈半利 (なはり) を抜けて土佐湾東岸をひた走り。

室戸岬の突端が近づいたところで岬に連なる大きな山脈を越えて東海岸に出て、本日の宿であるホテル明星 (あけのほし) に 18 時 15 分到着。目の前に大海原が広がり、明朝の日の出が期待できそうな眺めの良い部屋に入った。地元の酒を味わってみようと思い、夕食の膳に土佐鶴をつけてもらった。鯉の刺し身は、適度な歯ごたえと口に広がる美味しさで土佐鶴とのコンビネーションは絶品だった。

平成24年5月24日 晴

起床後浴衣のままで目の前の大海原からの日の出をじっくり撮影。薄雲がかかったような空で、鮮やかな陽光はないが「日の出」の儀式を存分に楽しむことができた。そしてその後はいつものように朝風呂と付近の海岸の散策。室戸岬周辺の海岸線には、地球の長い歴史の中でこの地面がどのようにして形成されてきたかがわかる様々な現象が見られる。



象が見られる。

朝食後出発。まずは早朝散歩の続きでジオパークを中心に岬周辺の海岸線の散策。13 万年の時の流れの中、地中で様々な変遷を経たものが隆起して現れ、しかもそれが新しい大地と混ざり合っている現在の景観を作っている。

ジオパークとして登録し、整備も進められているようである。室戸岬は一見の価値がある所と強く感じた。

左手に土佐湾を見ながら漁港に立ち寄ったり、直売店や道の駅を覗きながら国道 55 号線 (土佐浜街道) を北上。室津港に建つ高知信金の営業店の建物に驚き撮影。金融不安定な時代に、しかも中小金融機関の生き残りが難しい時代に、室戸の一漁港町によくこれだけの建物を建てたものだというのが率直な印象。

吉良川まちなみ館の看板が気になって立ち寄ることにした。水切瓦と漆喰の古い街並みが保存されていると書いてある。国道の一步裏通りに入るとそこは別世界。漆喰壁と瓦屋根が美しい街並みをじっくり散歩。

奈半利を過ぎると土佐くろしお鉄道が並走するようになった。所々に駅舎の中に物産直売店を併設したりユニークな駅が目立つ。

安芸・琴ヶ浜を過ぎると「和食」と書いた信号があり、くろしお鉄道の駅への入り口にもなっていた。標識の下のローマ字表示を見たら、「わじき」と読むのが正しいことがわかった。

野市で国道 55 号線を離れて龍河洞へ。海拔 400m ほどの山の中腹にある鍾乳洞。かなり低く狭い通路が多いので、身をかかめたりよじったりで 30 分歩くと疲れを感じた。出口近くの広い場所に、古代人が穴居していたことを示す生活物品が多数残されていたのは驚きだった。近頃の鍾乳洞は不要なカラーイルミネーションで脚色しすぎて本来の姿の鑑賞の妨げになっているケースが多いが、この鍾乳洞では足元を照らす白色蛍光灯のみで不快を感じることなく出口に到達した。・・・と思ったら、最後の洞窟に怪しげな色の LED 照明が施されていた。ボランティアの説明員曰く「かなり抵抗したんですがねえ、押し切られました。」



再び 55 号線に戻って高知市内に向かう。見知らぬ町で夕方の交通ラッシュが始まりつつある時間帯、少々緊張の運転になる。鏡川と国分川の合流地点の左岸に盛り上がる五台山に上ると広い公園が現れた。公園の一隅にある牧野富太郎植物園に入り、迫りくる閉館時刻を感じながら駆け足で見学。ここは一日がかりになるぐらいのボリュームがある。

夕方の交通ラッシュの真っ盛りの上に路面電車も走っている市内を走り抜けると、高知城の南西に位置する城下町の一角に今宵の宿が待っていてくれた。ホテル城西館に 17 時 15 分に到着。

再び 55 号線に戻って高知市内に向かう。見知らぬ町で夕方の交通ラッシュが始まりつつある時間帯、少々緊張の運転になる。鏡川と国分川の合流地点の左岸に盛り上がる五台山に上ると広い公園が現れた。公園の一隅にある牧野富太郎植物園に入り、迫りくる閉館時刻を感じながら駆け足で見学。ここは一日がかりになるぐらいのボリュームがある。

夕方の交通ラッシュの真っ盛りの上に路面電車も走っている市内を走り抜けると、高知城の南西に位置する城下町の一角に今宵の宿が待っていてくれた。ホテル城西館に 17 時 15 分に到着。



8階の展望風呂からは市内の景色が眺められる。極端に大きなビルが建っていない高知の町は、風景としても落ち着きがあって味わい深い。高知城や旧の城下町を眺めながらたっぷりと温まり、夕食は皿鉢料理付き。実は、皿鉢料理が食べられるということでこの宿を選んだ。昨晚同様に土地の自慢料理にはその土地の地酒が一番だろうとの読みで、酔鯨を注文した。やはりカツオ料理にはこれが一番。

平成24年5月25日 高知=曇り時々小雨 上空=快晴 東京・千葉=曇り

旅の最終日、窓から見下ろすと歩いている人が皆傘をさして歩いている。小雨程度のたいした降りではないが、昨日まで好天に恵まれていたので僅かばかりショック。しかし、よく考えて見れば5月末にこんなに晴天が続くことの方が珍しいのではないか。最後の朝風呂を浴びて朝食後、洗濯物と一部の土産物を宅急便で送り出発。



まずは路面電車の撮影、そして高知城へ。駐車場に車を置いて場内を散策しながら天守閣を目指す。

山内一豊が慶長6年(1601年)に着手し、10年かけて築城したという話だけが有名だが、実はさらに遡って、南北朝時代に長宗我部元親がこの地に大高坂城を築城したのが起源になっているとのことだ。

美しい石垣の曲線の影から見えたり隠れたりする天守閣、天守閣から見下ろすと幾重にも重なる屋根の曲線と瓦の美しさ。

高知城の駐車場に車を置いたまま歩いて「ひろめ市場」へ。

高知の台所と土産物がひしめく市場は興味深い。魚屋を覗くと色々な魚のこの土地での呼び名がわかって面白い。土産物を物色しながら市場の中と、その外にあるアーケード街を歩くとあつという間に時間が流れてしまった。市場の中の食堂には食欲をそそるものが沢山並んでいたが、朝食が多めだったのでまだ腹が減らない。少々心残りではあるが食事はとらずに先へ進むことにする。

高知市内の信号には「ココ!マーク」というアルファベット一文字の表示が付いている。主要な交差点にはA・B・C・・・とマークが付けられており、そのマークが地図上にも記されているので、よそから来た人にはわかりやすくて良い。

高知城の駐車場に戻って、次の目的地(今回の旅の最終の観光地)は桂浜。市内から真南に進み、桂浜浜街道に出て海沿いに数Kmで桂浜に到着。市内から30分ほどだっただろうか。よくポスターなどで見る景色を眺めながら海岸線を散歩した後、坂本竜馬像が建つ山の上へあがった。テレビ番組の影響で聞き飽きた上にご当地であることも手伝って、町中の看板から商品の名前までいたるところに「竜馬」が使われており、少々耳触り・目障りな気がしないでもない。



土産物屋で最後の土産探し、ようやく空腹を感じてきたので土産物屋の二階にある食堂でうどん。

旅を締めくくり空港へ向かうにはまだ少し時間が早い。地図を見ている内に仁淀川の河口を見て来ようということになり、浜街道を西へ。この道は海を見ながら走る道で気持ちが良い。

仁淀川河口大橋を渡ると土佐市に入る。海岸近くに駐車場とトイレがある広場があったのでここに車を停めて散歩して見ることにした。橋はコンクリートのアーチをいくつも並べたような美しいフォルムで、河口の砂洲や遠方の山並みなどともマッチして、感じの良い景色を作り上げている。河口で川幅が広がっているのも、川としても吉野川よりも立派に見える。付近の畑には大規模なビニールハウスが林立し、豊かな農村と感じられる。駐車場に戻ると、ひとりのサーファーが砂浜から帰って来たところだった。



いよいよ旅の終わりモードに入り、空港近くのレンタカーオフィスに向かって移動開始。浦戸大橋で浦戸湾を渡り、黒潮ラインと名が付いた海辺の道を東へ。物部川の手前で北に折れて空港の敷地に沿って進むとレンタカーオフィスに到着。この旅での走行距離は800Kmだった。

荷物を整理して、レンタカー会社の車で高知空港へ。

搭乗手続きを済ませた後お店を覗いていたら鯖寿司が美味しそうだったので、帰宅後の夕食用に購入。本屋をのぞいたら「高知県謎解き散歩」という本が目についたので購入。

高知空港発 16時25分 (JL1490)、往路と違って今度は満席。読書とコーヒーと多少のまどろみを経て17時45分に曇り空の羽田空港に到着。

通勤ラッシュの電車に乗るのも億劫なので、津田沼行きのリムジンバスに乗ることにした。

道路は空いていて京成津田沼駅着 18時50分、19時半には自宅に帰着することができた。

五日間の旅の無事を祝って司牡丹で乾杯し、高知空港で買ってきた鯖寿司で夕食。天候に恵まれて、素晴らしい旅(はじめましてしこく)が体験できた。

◆旅の終わりにもうひとこと

①遍路が地域を活性化

四国霊場八十八札所をめぐるお遍路の旅がその昔から続いている。さらに近頃のブームも重なり、いたるところで遍路の旅を楽しむ個人や団体の旅行者と出合った。勿論歩くのに適した季節が最も混雑するに違いないが、一年を通してこの種の旅人が途絶えることはないのだろう。

でも良く見ていると、神仏に近い所を旅している筈なのにマナーの良くないお遍路さんも少なくない。

とは言えども、四国の経済を活性化させる素材のひとつになっているに違いない。

②高速道路ができた

松山道・徳島道・高知道と高速道路が完備され、本州の主要道路との連結も進んだ。

一部に片側一車線の対面交通もあり、慣れていないと怖いところもあった。しかし、車の通行量はさほど多くはなく、昨今話題となっている「道路建設費用が回収できるのか？」という点では若干疑問も残った。

帰省ラッシュや観光ラッシュなどのピーク時はともかくも、平時の通行量がどのぐらいあるのだろう。

冷静に考えて見ると、心配になってくる。本当に高速道路が必要だったのか？

③四国コンビニ事情

今大都会では個人経営の小売店が姿を消して、コンビニエンスストア(以下コンビニと略記)が目立つようになってきている。四国に入ってから気がついたが、コンビニはさほどには目立たず、町中の商店が元気にやっているように見えた。

また、5日間の旅の中で「セブンイレブン」は一度も目にしなかった。何か政治的な背景でもあるのだろうか？

④四国ビール戦争

旅を続けて高知県に入った時に初めて気が付いた。道路脇に建つアサヒビールの広告看板。

「こじゃんとうまい キリッと辛口 やっぱりアサヒのスーパードライぜよ」

室戸岬まで来ると今度はキリンビールの 「たっすいがは、いかん！」

他のメーカーの広告はあまり見かけないので、この二社でシェアを分け合っているのだろうか。

高知は日本酒の県、しかも高知人はお酒好きとも言われている。高知産の日本酒の70%は県内で消費され、県外に出て行くのは30%だと言われている。

ビールの出番は少なく、僅かな市場を二社で争っているということだろうか？

それにしても、テレビ番組の影響もあってのことか、ビールばかりではなく土佐弁の広告看板が目立つ。

⑤瓦屋根が美しい

徳島に入った日に、民家の屋根の瓦が美しいのに気がついた。その後香川県に入り高知県に入ったが、どこへ行ってもこの印象は変わらなかった。神社仏閣やお城ばかりでなく、民家の一軒一軒がきちんとしたきれいな瓦を乗せている。我が国では、近代化にともない人々が暮らす家の作りは大きく変わって来たが、四国の民家は「守るべきものが守り残して受け継がれている」と感じた。

以上

<付録：四国で見つけた面白画像>



内科に「うがい」は必須



文句なしの 完璧な面白さ (いくつ探せるか?)



件民の電話への期待が文字に現れている

四国の面白画像
★2012年5月★



これはゴミなのか それとも監視役なのか



四国ビール戦争 よそ者にはわからんわ

四国の面白画像
★2012年5月★



土佐の高知にエチオピア?